

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)
群馬県前橋市元総社町七三-1-5
TEL 027-2555-3434
FAX 027-2555-3435
<http://www.neues-asahi.jp>

初の外国人首相

マンガの「サザエさん」に出てくる波平さんの年齢は五十四歳。その当時(昭和二十六年)の企業の定年は五十五歳。つまり波平さんは、あと一年でめでたく退職ということになる。それでは当時の日本人の平均寿命はというと、これが五十九歳。出生児の死亡率の問題等があるにしても波平さんは、あと五年しか生きられないことになる。退職金をもらい、年金をもらい、余命を樂しむという人生設計。ところが現在の平均寿命は、男性八一、二歳。女性はなんと八七、三歳。世界で第三位だ。つまり会社を退職した後、十五年から二十年は生きることになる。この数値は、今後少しずつ延び人生一〇〇年という時代もそう遠からず。この先どうするのだろう。年金、健康保険等。

You Tubeで、一九八二年の本田宗一郎氏の「行政改革」に関する講演を見ることができる。そこで本田さんは「オギャーと生まれて日本人は八十万の借金をしていることになるー!」と激怒している。早く行財政改革をおこなわないと日本の国は大変なことになると警鐘を鳴らしている。

ところが現在の日本では、一人当たりの借金が八六〇万円。生まれた瞬間に八六〇万円の借金を背負っているということになる。つまりその当時の十倍だ。

会社だったらどうするだろう。とにかく節約。出る金を抑える。これしかない。家庭でも同じ。そうしないと生活が守れない。

最近、チャーチルの回顧録を読んでいる。

すごいと思った。先見の明。決断力。もしもチャーチルが日本のトップだったら日本国はよみがえるかもしれない。

今年、ラグビーワールドカップで日本代表が大活躍した。チームには多くの外国人選手がいる。彼らは日本人よりも日本人らしいかもしれない。監督は、J・ジョセフさん。その前は、E・ジョーンズさん。二人とも日本のために命をかけてがんばってくれた。日本の国政に、もし外国

人議員が存在し、初の外国人首相が生まれたら多くの問題を抱えた現状が少しでも良くなっていくのだろうか。とにかく問題は山積している。

石川 靖 (朝日印刷工業株式会社社長)

恒例になりました年末の弊社社長、石川靖より一文を掲載させていただきます。

今年一年、ノイエス朝日で展覧会をしてくださった作家の方々、ご来廊いただいた皆様、そして「ノイエスだより」に目を通してくださった皆様ありがとうございました。

良い年をお迎え下さい。

ノイエス朝日は、一月十一日(土)から開廊いたしますので、お誘い合わせの上、お出かけ下さい。お待ちしております。

ノイエス朝日(展覧会)のご案内

新春特別企画

第二回「かがやく石川のKOGEI」展

日本工芸会石川支部

川北浩彦(木竹工) 吉田幸央(陶 芸)
坂本康則(漆 芸) 荒川文彦(漆 芸)
多田幸史(陶 芸) 四ツ井健(染 色)

会期 一月十一日(土)～十九日(日)
午前十時～午後五時(最終日は、午後三時終了)
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

ノイエスだよりの72号から74号でご案内してきました石川の作家六名による展覧会です。お正月の贅沢な時間をお楽しみ下さい。

可視2020

〈企画〉

前橋の美術2020協力企画

会期 一月二十五日(土)～二月二日(日)
午前十時～午後五時
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

出品作家

今井充俊 大島康幸 小淵俊夫 金井訓志
北村真行 坂本幸重 多胡 宏 豊嶋康男
原沢和彦 原 誠二

ノイエス朝日では、絵画、彫刻、工芸、写真などのあらゆる分野の展覧会を実施しています。

特に平面、立体の作品制作に日々向き合っている作家の表現方法の多様化にはめざましいものがあります。

美術家は、自己を手探りするように表現方法を模索しながら作品として視覚化していく、その過程には想像を絶するような格闘と長い年月の蓄積の上になつて、さらに自己のなかに新しいものを求め続ける姿勢があります。

「可視2020」の作家たちは、自分がおかれている存在自体に、また社会との関わりの中に問題意識を持ちつつ思考して作品にしていけます。

視覚化された作品の中に目に見える対象と、そこに秘められた作家の精神性をじっくり鑑賞していただければと思います。

* 初日の一月二十五日(土)午後四時よりオープニングパーティーがあります。

二月の企画展予告

井田秋雄個展 | 二度見して畑打ち返す試み1 |
二月八日(土)～十六日(日)前橋の美術2020協力企画

綿貫哲雄作陶展

二月二十二日(土)～三月一日(日)
* 二月のご案内は、来月にお送りいたします。